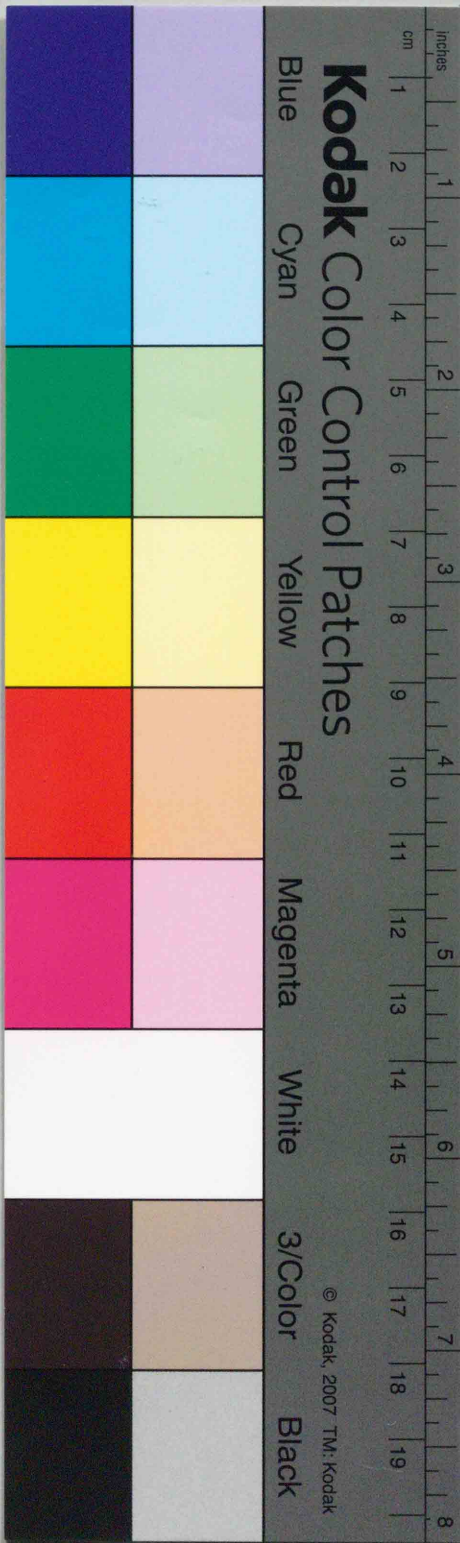
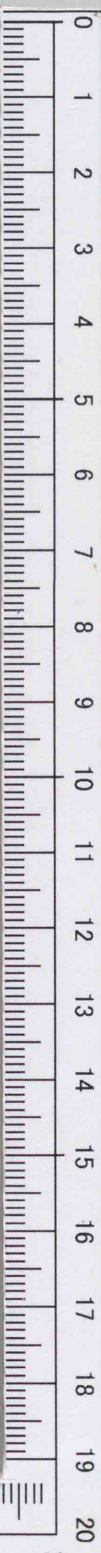


大分縣地誌及史談
全

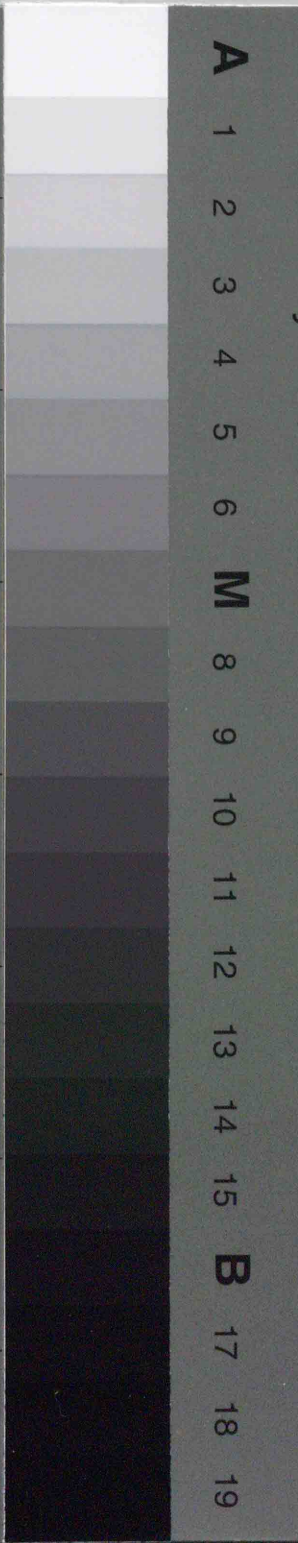
375.9
Ma11
資料室



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

30552

教科書文庫

3
291
32-1900
20000
22336

375.9
Mo 11

中央圖書館
資料室

大分県立図書館
大分県立図書館
大分県立図書館

牧源太郎編纂



大分縣地誌及史談

大分 甲斐書房

凡例

一本書は高等小學校第一學年に本縣の地誌及史談を課せ
んか爲編纂せしものにして凡十週四十時間にて教授し
終るの豫定なり

一本書は地誌を主とし之に史談を併記したるを以て能く
両者の連關を謀るは勿論史談に關しては殊に地方適切
の事項を加へ教授をなさんことを要す

一本書は本縣高等小學校長會に於ける委員の生徒用とし
て調査せる原稿を骨子とし編纂せしものなれば文字文
章及教授材料は勉めて簡略に従ひしを以て重要なる事
項は教授の際充分敷衍すへし他日教師用として教授法

大分縣地誌及史談

及詳細なる事項を網羅せるものを編纂し以て参考に供すへし

一本書史談の人物は主として故人を記載せり今人にして知名のものありと雖之を掲げず

一本書に掲ぐる戸數、人口、學校數等に關するものは明治卅一年末の現在により又文字の大きさは明治卅一年十一月文部省告示第六十一號に準據せり

明治卅二年八月

編者識

大分縣地誌及史談

地誌目次

第一	位置及境界	一
第二	廣さ及戸口	一
第三	區劃	一
第四	地勢	二
第五	氣候	七
第六	地味	七
第七	生業及物産	八
第八	都邑	八

第九 交 通……………十三

史談目次……………

第一 大友氏の時代……………十六

第二 各藩分封……………十六

第三 維新後の有様……………十七

第四 教育の有様……………十八

第五 人物……………十八

第六 戦亂……………十九

大分縣地誌及史談目次終



大分縣地誌及史談

牧源太郎編纂

大分縣地誌

第一 位置及境界

本縣は九州の東北部にありて北は周防灘、東は硫黄灘及豊後水道に臨み西北は福岡縣、西は熊本縣、南は宮崎縣に界す

第二 廣さ及戸口

東西の長さ三十里餘、南北の長さ二十二

里餘、面積四百九方里餘あり、戸數十五万四千餘、人口八十三万九千餘あり

第三區劃

本縣は豊後全國と豊前國二郡とより成れり、其の郡名を左に記す

豊後國 十郡

西國東、東國東、速見、大分、
北海部、南海部、大野、直入、
玖珠、日田

豊前國 二郡

宇佐、下毛

第四地勢

縣内一般に山多く平地少なし、唯大分、宇佐、下毛の海岸稍平なるのみ、西南は土地高くして東北に到るに従ひて低し、故に諸川東北に向ひて流る、海岸は出入甚しく、港、岬に富めり

(一) 山脈

英彦山（福岡縣に屬す）は下毛郡の西端にあり其の脈東に連れるものは荊股檜原の諸山となり其の東南に走れるものは概豊前、豊後の界を限り分れて鹿嵐、御許の諸山に連り其の南下せるものは權現、釋迦の諸山に連り筑後、豊後の界をなせり
九重山は火山にして肥後の阿蘇山脈に連り其脈湧出山に連り肥後の

界を限り又東北に延び大船、黒岳、由布、鶴見の諸山に連り此火山脈の近傍には温泉湧き出て硫黄、明礬等を出す
祖母山は日向、肥後の境に聳る高さ五千四十尺、縣内第一の高山なり其の脈東に連り日向の境を限り脈中に傾山、桑原山、及木浦、尾平の三鑛山あり

二子^{フタゴ}、文珠^{モンシユ}の二山は國東半島の中央にありて其の脈延ひて東西國東の境を限れり

(二)

原野^{ハラノ}、鶴崎の平地之に次く其の他、海或は河の沿岸に於て平地少からず速見の野^{ハヤミ}、尾原^{オハラ}、鶴見野^{ツルミ}、直入の阿蘇野^{アソノ}、久住野^{クヰ}、玖珠の千町^{チヤウ}、蕪田^{ウラタ}、日出^{ヒデ}、生野^{ナマノ}

等は高原にして水利便ならず從て地味宜からず

鶴見嶽の東の裾なる石垣原^{ノ一部}は

大友、黒田氏の古戰場にして大友の

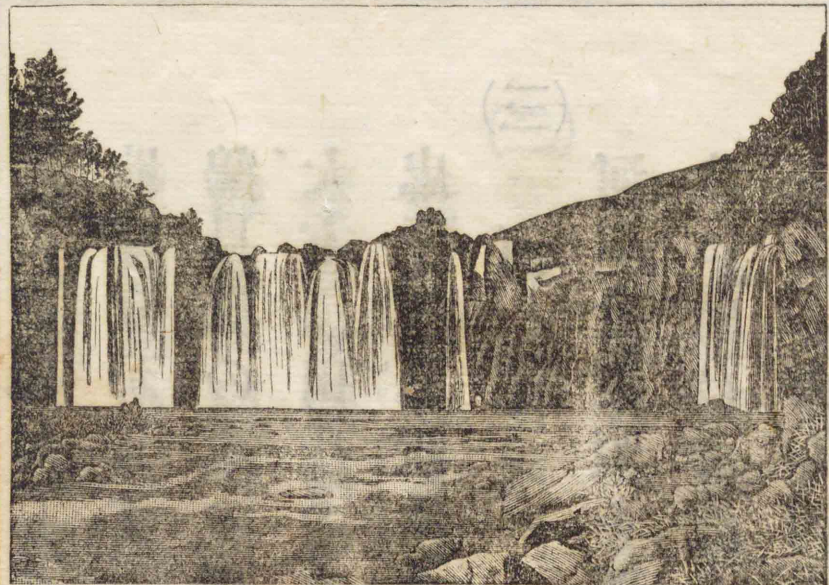
忠臣吉弘^{ヨシヒロ}、統幸^{トウキキ}の墓あり

(三)

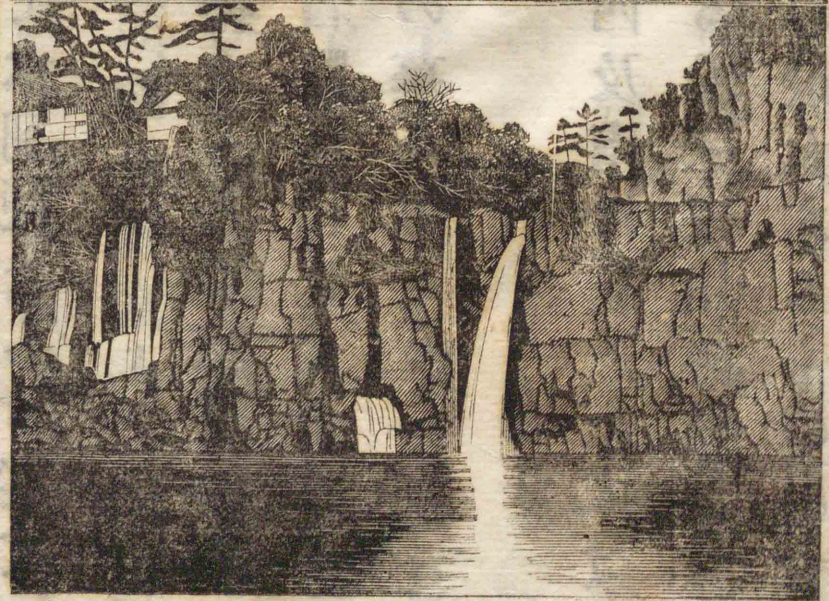
河 流

河川は概源を西及南に發し東或は北に向ひて流る唯三隈川の西流するあるのみ河の最大あるものは大

沈墮雄瀧之圖



沈墮雌瀧之圖

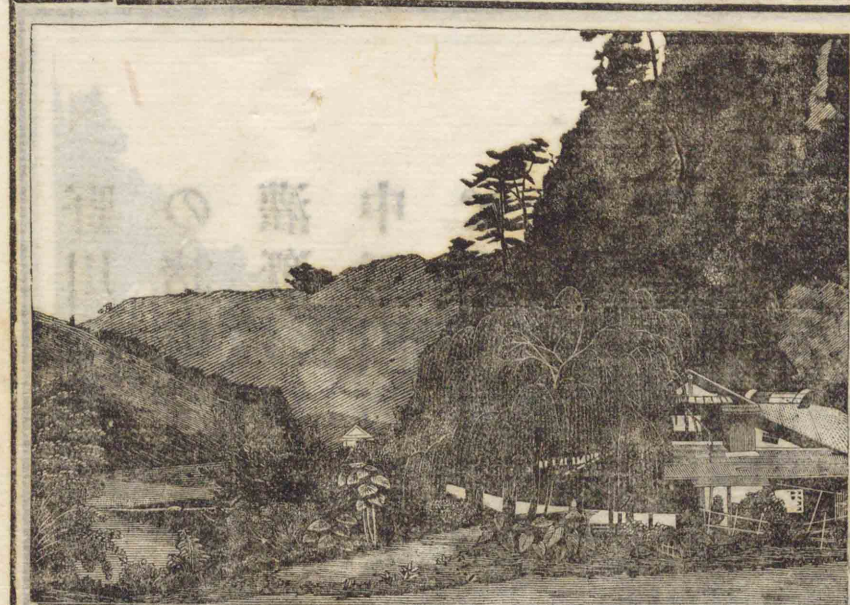


野川にして番匠バンシヨウ山國大分驛館三隈の諸川之れに次く此等は舟運の便灌漑の利又河魚の漁少からず其の中三隈の鮎大野の鯉鰻は著名なりとす

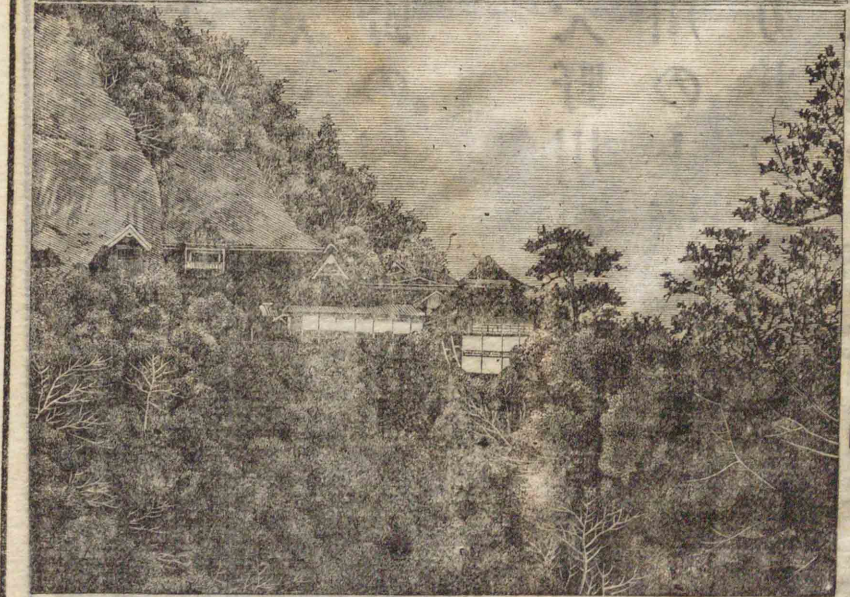
縣内瀑布多く大野川の上流に沈墮チンダの瀧あり驛館川の上流に椎谷瀧シノヒあり共に壯觀なり其の他龍門寺魚返の瀧等あり山國川の上流山國谷は

大分縣地誌

耶馬溪中山陽翁投筆所之圖



耶馬溪中羅漢寺之圖



有名なる耶馬溪の勝地なり大野川
 の中流、戸次磧カハラは長曾我部、島津氏の
 古戰場にして丘上に長曾我部信親
 の墓あり
 三隈川に次きて堅田川、桂川、安岐川、
 八坂川、臼杵川等あり

(四) 海岸

國東半島海上に斗出し其の北端を
 長崎鼻ハナと稱す北方周防灘の沿岸は

出入少なく遠淺にして舟泊に便な
らす唯中津、長洲、高田、竹田津港あり
國東半島の東南端なる美濃崎は地
藏崎と共に齒沓灣を抱く灣内に守
江、杵築、日出、別府、大分、佐賀關港あり
地藏崎は又伊豫の佐田岬と海上三
里を隔つ此の間を早吸の瀬戸と云
ふ此より以南は出入殊に甚しく楠
屋崎、蒲戸崎、鶴見岬、芹崎等遠く東海

中に斗出せり曰杵、下の江、佐伯の諸
港其の間にあり
竹田津港は北海岸唯一の良港にし
て佐賀關は縣下第一の良港なり佐
東、伯港は水深く重要な位置なるを以
て一時海軍要港となさんとし、議
ありしと云ふ
姫島は國東半島の東北海上凡一里
の所にある小島なり地藏崎より以

南海上に高島、無垢島、保戸島、大入島、大島、屋形島、深島等散在せり、其の中、姫島尤大なり、大入島、大島之に次く

第五 氣候

東方沿海の地は溫暖なれども西南地方は土地高く山岳多きを以て稍寒冷なり、中にも直入、玖珠、日田等は寒氣甚しく霜雪殊に多し

第六 土地と味

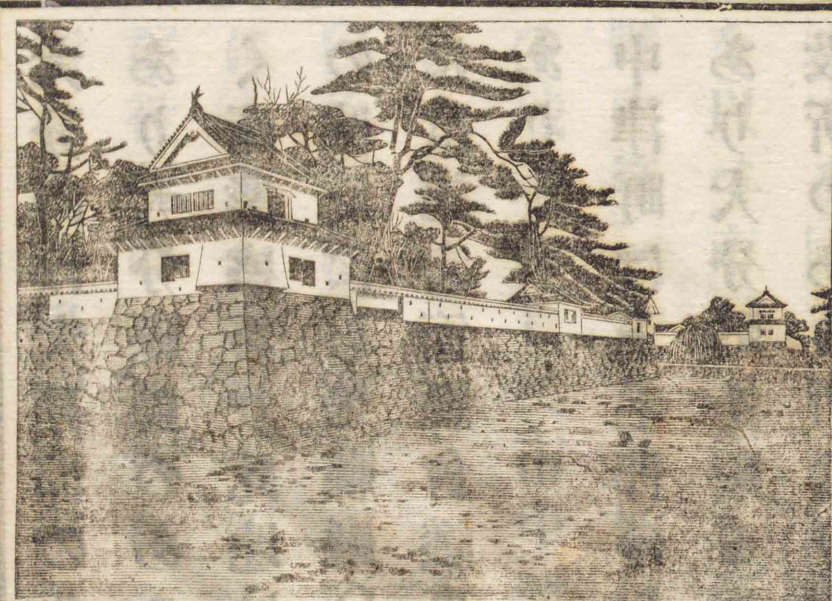
東北部は地味肥沃にして米、麥、其の他農産物を生す、西南部は大抵瘠地にして耕作に宜しからされども茶、煙草、麻等に適し、又牧草に富めるを以て牧畜に適せり、南北海部は地味肥沃ならさるも甘藷及果樹の栽培に適せり

第七 生業及物産

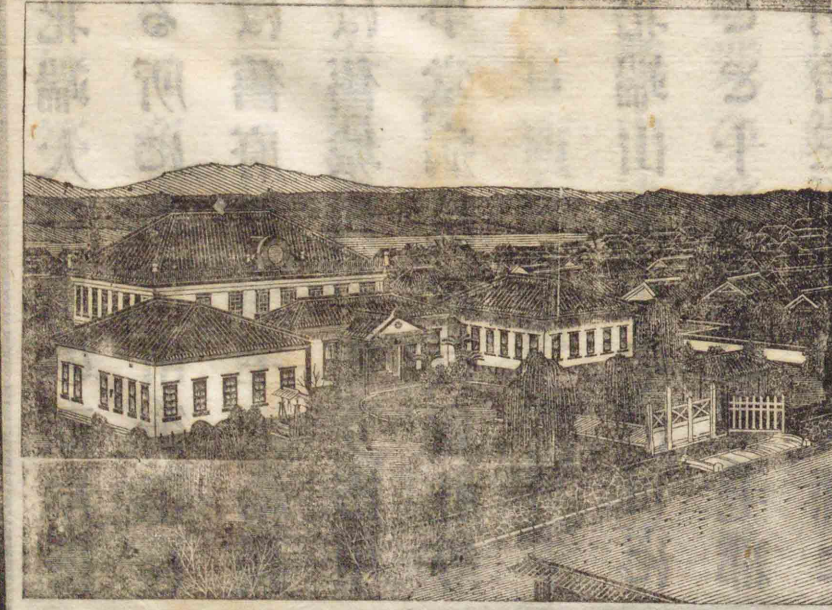
農業に従ふもの最も多く、養蠶、製糸等の業益開け、養蠶の最盛なるは宇佐郡なり、

青筵、華筵製造亦盛にして、國東、速見を
 主とし大分之に次く、支那は商工の業
 盛にして山間の村落は、農樵に従事
 し沿海の地は漁業或は、魚を主とし漁
 業尤盛なるは南北海、物産の主もなるもの
 青筵、華筵、紙、茶、煙草、食、材木、鰯、干鮑、
 木蠟、石灰、其他礦物、
 第八郡 都 邑

大分縣廳之圖



縣會議事堂之圖



大分町は大分郡の北端大分川の西岸にあり大分縣廳のある所にして市街正しく商業盛なり此地は舊府内藩主大給氏の城址にして縣廳は舊城内にあり市中には諸官衙、縣會議事堂、病院、銀行、會社等あり

中津町は下毛郡の北端山國川の河口にあり大分町を距ること十九里餘下毛郡役所のある所なり明治三十年福岡縣に

通する國道に沿ひ豊州鐵道の開通せしを以て市況一變し商業の繁盛なること縣内第一なり此地は舊中津藩主奥平氏の城址にして市中諸官衙、會社、中學校等あり

臼杵町は北海部郡の東邊臼杵川の河口にあり大分町を距ること八里餘北海部郡役所のある所にして商業盛なり諸官衙、會社、農學校、中學分校等あり此地は舊

曰杵藩主稻葉氏の城址なり
以上三町は縣内の大都邑にして何れも
人口一万以上を有す左に人口一万に達
せざる郡役所所在の都邑を擧ぐ

名稱 郡役所

大分町より
の概里程

- 玉津町 西國東郡役所 一四里
- 國東町 東國東郡役所 一五
- 日出町 速見郡役所 七
- 佐伯町 南海部郡役所 一六

三重村 大野郡役所 一〇

竹田町 直入郡役所 一一

森町 玖珠郡役所 一四

豆田町 日田郡役所 二一

四日市町 宇佐郡役所 一四

其他高田、杵築、別府、鶴崎、佐賀關、長洲、宇
佐等あり

附記

(1) 温泉場

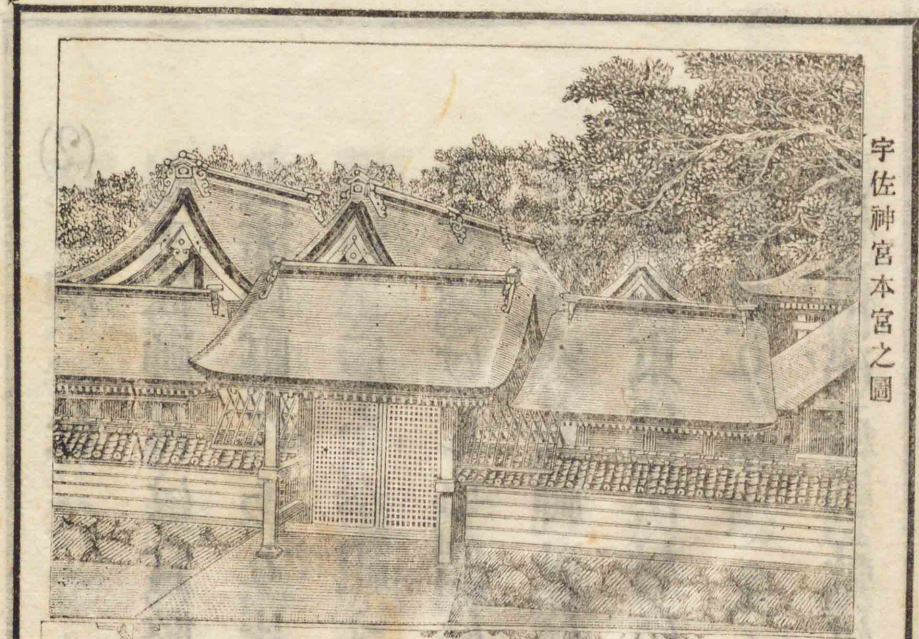


鶴見山の麓は到る所温泉湧き出つ
るを以て浴場多く其の中別府、濱脇
の浴場は諸病を治するの効著しき
を以て春秋の浴客日に數千に下ら
す之に次くは湯平、鐵輪とす其の他
觀海寺、堀田、塚原、明礬、芝石等なり玖
珠郡に寶泉寺、湯坪、筋湯等あり冷泉
は玖珠郡の寒の地獄、北海部郡の鷺
來ヶ迫等有名なり

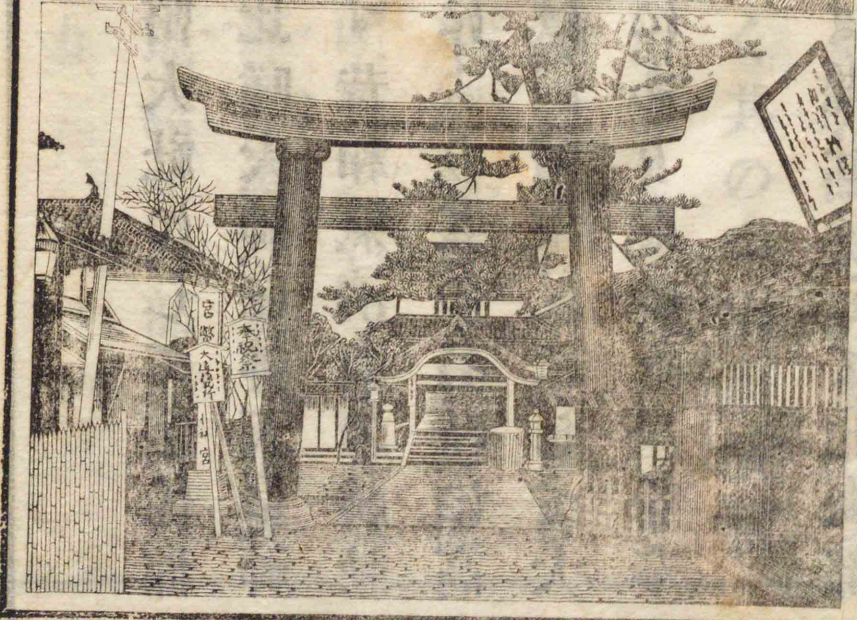
(2) 神社

宇佐神宮は官幣大社にして宇佐郡
宇佐町にあり比咩大神、應神天皇、神
功皇后を奉祀す昔和氣清磨の神勅
を受けし事蹟により其の名特に高
し西寒多神社は國幣中社にして大
分郡東植田村にあり應神天皇を奉
祀せり
椎根津彦神社は縣社にして北海部

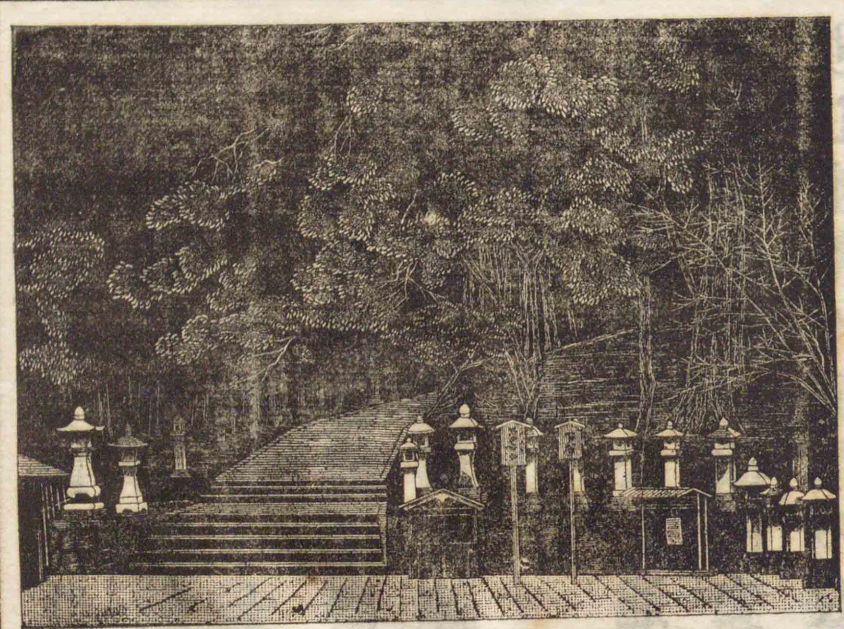
宇佐神宮本宮之圖



宇佐神宮吳橋之圖



宇佐神宮下乗場之圖



郡佐賀關町にあり
 神武天皇御東征の
 際海路の嚮導とな
 りたる椎根津彦を
 祀れり
 城原キバル八幡神社は縣
 社にして直入郡城
 原村にあり應神天
 皇を祀り景行天皇

を合祀す此の地は景行天皇、土蜘蛛の賊御征討の際、輦を駐められし所なり

其の他縣社には奈多八幡社、柞原八幡社、早吸日女神社等あり又郷社村社甚多し

第九 交通

縣内山多きか故に交通廣く開け居らざりしも年々道路の改築及修理を加ふる

を以て漸々便利に赴けり海上は航路開け汽船往復し郵便電信局は各地にあり以て交通運輸の便に供す

(一) 鐵道

豊州鐵道 福岡縣行橋より中津今津を経て柳ヶ浦に至る線路にして明治三十年十月開通せり

(二) 街道

1、豊前街道 大分驛より別府、豊岡、

日出、立石^{ミテイシ}、宇佐、四日市、中津の諸驛
を経て福岡縣界に至る

2. 筑前街道 大分驛より向原^{カキノハラ}、西長
寶、川西、中村、戸畑^{トハマ}、隈の諸驛を経て
福岡縣界に至る

3. 筑後街道 大分驛より戸畑、豆田
の諸驛を経て福岡縣界に至る

4. 肥後街道 大分驛より野津原、竹
田^{スガノ}、菅生の諸驛を経て熊本縣界に

至る

5. 日向街道 大分驛より戸次^{ツツヤ}、三重、
小野市、重岡の諸驛を経て宮崎縣
界に至る

6. 伊豫街道 大分驛より鶴崎市、佐
賀關の諸驛に至る

(三) 航路

大坂行 大分港出帆、別府、日出諸
港に寄港し四國の諸港を経て大

坂に至る

宇和島行 大分港出帆、佐賀關港

に寄港し伊豫の宇和島に至る

細島行 大分港出帆、佐賀關、臼杵、

佐伯諸港に寄港し日向の細島に

至る

馬關行 大分港出帆、別府、日出、竹

田津、長洲、中津の諸港に寄港し長

門の馬關に至る

大分縣史談

第一 大友氏の時代

大友氏の祖能直建久七年(今を去る凡七

百年)豊前、豊後の守護となり府内に治す

其の子孫相つきしが第廿代義鎮ヨシタカは髮を

剃りて宗麟ソウリンと號す心を用ひて能く治め

遂には近國を攻めとり殆んど九州を從

へ外國の商船と貿易し或は外教を信じ

或は火器を傳習する等其の勢盛なり其

の子義統ヨシムネに至り豊臣氏の爲に國を收められ遂に滅亡に至れり能直よりこゝに至るまで二十一代三百九十八年なり
第二 各藩分封
大友氏亡ひて後諸藩に分れ徳川時代に及ひて豊後七藩となり且肥後領延岡領島原領天領等所々に散在す日田の豆田には代官所あり各藩其主の變更多かりしも維新の際の藩主を左に記す

豊後

香川岡藩	七万石	(竹田)	中川氏
白杵藩	五万石	(白杵)	稻葉氏
杵築藩	三万二千石	(杵築)	能見氏
日出藩	一万五千石	(日出)	木下氏
府内藩	一万三千石	(大分)	大給氏
佐伯藩	一万石	(佐伯)	毛利氏
森藩	一万四千石	(森)	久留島氏
豊前			

中津藩 十萬石 (中津) 奥平氏

第三 維新後の有様

維新の際各藩封土を奉還せし後日田縣を置き中津、大分に支廳を置き明治四年廢藩置縣に及び大分縣を置く明治九年豊前の宇佐、下毛の二郡を本縣の治下に合す本縣の最初の權令は森下氏にして香川氏其の後を受け西村、岩崎、山田、平山、杉本、押川の諸氏相繼きて知事となり尋

で現任知事鈴木氏に至る

第四 教育の有様

徳川時代には私塾、寺子屋の教育行はれ各藩には藩學校を興し學者を聘して士族の子弟を教育せり明治五年學令頒布以來各地に小學校を設け士民の子弟をして入學せしむ其後三回の改正を経て現行の學制となる縣下町村立小學校數本校四百十六分教場百五十九なり縣立

學校は師範學校一(大分郡西大分町にあり)中學校本校

二(大分郡豊府村と下毛郡中津町とにあり)分校四(北海部郡白杵町直入郡竹田町速

見郡杵築町宇佐郡宇佐町にあり)農學校一(北海部郡白杵町杵町にあり)あり

第五 人物

學者には三浦安貞、綾部道弘、前野良澤、脇蘭室、帆足萬里、廣瀬淡窓等あり殊に淡窓の日田咸宜園の名高く門弟三千餘人を出す萬里は博學卓見の人にして經世の材を抱く勤王家には毛利空桑、長三州、小

河一敏等あり又書畫には田能村竹田の

名尤高く平野五岳、帆足杏雨、十市石谷等

之に次ぎ書は三州、五岳を推す五岳は高

僧にして氣品高く書畫詩を善くし三絶

僧と稱せらる

第六 戦亂

維新以後農民の一揆屢々起りき明治十年西郷隆盛の反するや賊徒本縣に亂入し竹田、白杵、三重、重岡等を騒かせり中津

の人増田宗太郎賊に應じ其の徒數十人を集めて中津支廳を襲ひ又本縣廳に攻め來るも勝たず遂に逃れて賊の本隊に入り後捕斬せらる

附記 招魂社

招魂社は大分郡東大分村字牧村松榮山上にあり明治十年の役本縣内にて戦死したる忠士を葬れる處にして毎年春季一回祭典を行ふ參拜するもの實に多し

大分縣地誌及史談 終

大阪府北區及東區

明治卅三年四月一日印刷
同 年四月六日發行

著作者 牧源太郎

大分縣分分町八百六十六番地

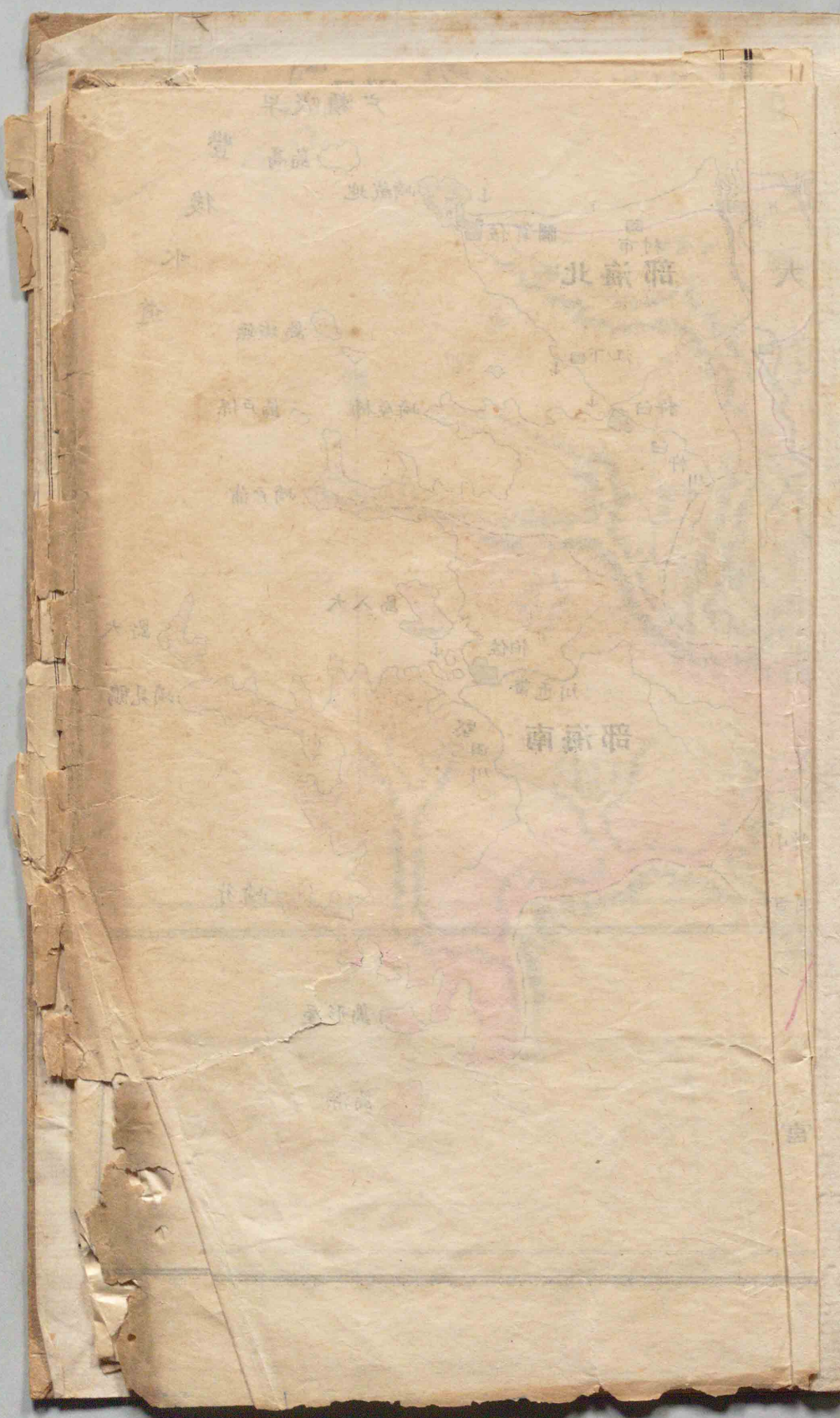
發行者 甲斐治平

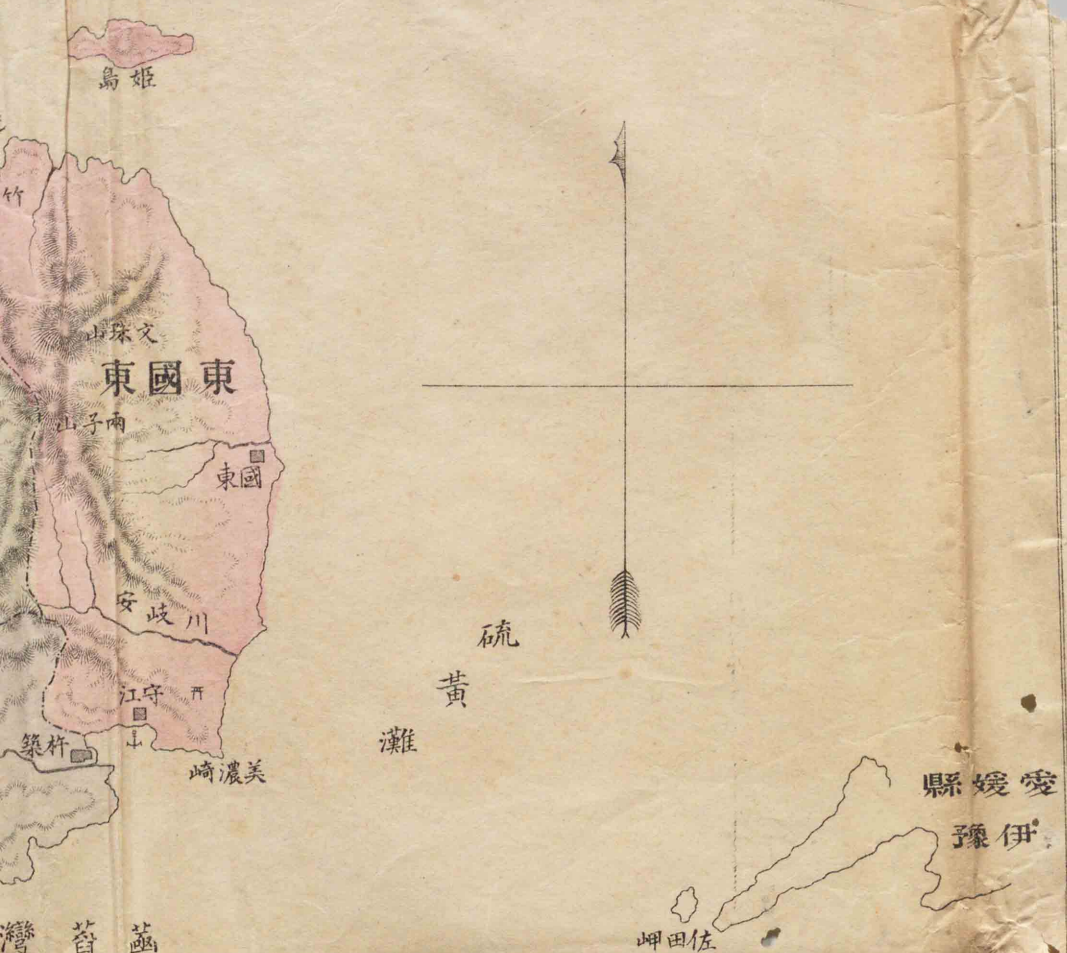
大阪市東區北久太郎町二丁目
六十六番屋敷

印刷者 吉田宗三郎

大阪市東區北久太郎町二丁目
六十六番屋敷

印刷所 大阪活版製造所





不
詔
復
製



復

印刷者 吉田宗三郎

印刷所 大阪活版製造所

大阪市東區北久太郎町二丁目
六十六番屋敷

周防灘



東國西

東國東

前豐縣岡福

前筑縣岡福

後筑縣岡福

毛下

佐宇

見速

灣蒼菴

珠玖

田日

大分

野大

入直

北海部

硫黃灘

岬田佐
戸瀬吸

島

島

崎屋桶

島入大

伯佐

島姫

長崎鼻

津田竹

山丸文

山子南

東國

安波川

江守

崎濃美

岬田佐

戸瀬吸

島

崎藏地

島

崎屋桶

島

島入大

伯佐





											凡例
鐵道	街	名	都	神	港	鑛	鑛	山	郡	國	界
道	道	邑	會	社	山	泉	脈	界	界	界	

向日縣崎宮

分縣比計及

宇都宮